

バックアウト・ムービーズ 私をKOで打ちのめした映画

Round 3



『シェーン』

(ジョージ・スティーブンス監督、1953)

ビクター・ヤングの音楽とロイヤル・グリッグスの撮影によるオープニングは超一級の美しさ。「ダイアン・キートンを真っ先にこの映画に連れてったよ」とウッドディ・アレン。山田洋次は『遙かなる山の呼び声』としてリメイク。C・イーストウッドも同じ設定を二度も映画化(『ペイルライダー』『グラントリノ』)。

・社会正義第一・子どもの手本になる・強敵に挑む・孤独をいとわない・逃げ腰な愚衆を諭す・振り返らない… 男の見本が『シェーン』にある。私は原作(ジャック・シェンファー)を中学時代に二段ベッドの下段で読んだ。シェーンとは正反対の大人たちに囲まれて育った日々、今のヘンテコ社会の到来は簡単に想像できた。

ジョージ・スティーブンス監督作品はどれも人物が生き生きとしている。シェーン役のアラン・ラッドばかり取りざたされるが、脇役陣のキャラクター作りがすごい。「よくぞここまで」という人物を一部挙げると…

牧童頭ライカー：演じたエミール・メイヤーは、42才だったが82才に見える。40代からおじいちゃんばかり演じた

笠智衆も白旗をあげるだろう。

ライカーの兄弟：ジョン・ディアークスの顔は赤ずきんちゃんのオオカミ役にピッタリ。彼も47才だったとは。

グラフトン：一度だけのセリフで教養溢れるポール・マクベイ。

トローリー：開拓者を演じたエリシャ・クック・ジュニアは名物個性派。

ウィルソン：悪役の定番ウイスキーではなくブラックコーヒーを黙って飲むジャック・バランスはプロボクサーだったが兵役にとられ、キャリアはおしまい。登場シーンでは乗馬が苦手だったから、馬をゆっくり歩かせた。それが彼の怖さを倍増。ボクサーの繊細さを演じた



© 1959 Paramount Pictures Corp.

『ヘビー級ボクサーへの鎮魂歌』はエミー賞を獲得。2004年、ロシア映画祭でジャックは「両親はウクライナ生まれ。ロシアとは関係ないさ」とプーチンからの授賞を拒否。芸術なんかチンパンチンパンな大臣から、文化勲章とかの類いを受け取る人たちとちがって、政治利用されない。

クリス：悪から善に転じる貴重な役は、実際に牧童だったベン・ジョンソン。原作者と監督の希望が表れるが、現実には稀。

犬たち：数匹の犬が要所で見せるすごい演技。大河ドラマの役者は目も当てられないが、ワンちゃんからは目が外せない。

子供たち：立って手を振るだけでも見事。出演キャストで今も存命の少女役がひとりいる。

2007年のアメリカ映画協会の歴代ベストで45位。西部劇部門では3位。

スティーブンス監督の他の傑作は『陽のあたる場所』(Lucky Day)